

# 日刊 動労千葉

1988.2.12  
No. 2757

## 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）公衆）〇四七二（二二）七二〇七

### 自衛隊が青函トンネルを 軍事使用！

陸上自衛隊は、今年夏に予定している「北方機動特別演習」で、青函トンネルの海峡線を利用することとし、JR当局と計画を詰めていることが明らかとなった。さらに、今年の演習を皮切りに、来年以降も、青函トンネルを利用した演習の経験をつみ重ねたいとしているのである。自衛隊は、①輸送手段が多様化できる ②海底下百メートルを通過することから、海路・空路に比べて攻撃にさらされにくく、安定したパイプになる ③開口部が破壊される以前の段階なら輸送のスピードアップと輸送量の増加に役立つとの見方をとっているというのだ。

また、戦車や、一五五ミリりゅう弾砲なども、荷重・幅などに問題がないことが分った（あらかじめ、軍需用に設計されているということだ）というのだ。

### これが「六三・三ダイ改」の真の姿

この事実のなかには、「歴史的な日本列島地続き時代の幕明け」（JR当局）「長い鉄道史上はじめて実現した手づくりのダイヤ」（当局・鉄道労連の覚書）「労使が協力してつくりあげた画期的な内容」（鉄道労連）等々と、両手をあげて、労使双方から、バラ色の大キャンペーンがおこなわれる「六三・三ダイ改」の真の姿が鮮明に浮かびあがっている。

かの「有事立法発言」で名をあげた栗栖元統幕議長が公然と語っているように、青函トンネルは軍事用、有事用にこそ必要だったのであり、あらかじめ、それを目的として作られたのである。

# 「63・3ダイ改」を許すな！ 自衛隊が演習に青函トンネルを使用

## 青函トンネルを 利用し部隊輸送

北方演習で陸自計画

陸上自衛隊は、今年夏に予定している「北方機動特別演習」で、青函トンネルの海峡線の一部、この三月に開通する青函トンネルのJR海峡線を利用することとし、JR当局と計画を詰めていることが明らかとなった。さらに、来年以降も、青函トンネルを利用した演習の経験をつみ重ねたいとしているのである。自衛隊は、①輸送手段が多様化できる ②海底下百メートルを通過することから、海路・空路に比べて攻撃にさらされにくく、安定したパイプになる ③開口部が破壊される以前の段階なら輸送のスピードアップと輸送量の増加に役立つとの見方をとっているというのだ。

### 青函トンネル自衛隊使用のために 十万人の首が切られた

しかも、許せないことに、そのばく大な費用は、全て国鉄労働者と国民におしつけられたのである。三七兆円とされた、国鉄赤字の三分の一以上は、青函トンネル・本四架橋の建設費である。つまりある意味では、自衛隊東部方面隊を北海道に地続きで通すために、国鉄分割・民営化が強行され、十万人の国鉄労働者が首を切られたと言っても過言ではないのだ。加えて言うならば、貨物会社だけは分割せずに、全国一社体制をとったことの意味は、やはり軍需輸送の確保にある。こんなことが、どうして許せるだろうか。

### 動労革マル・鉄道労連の 「六三・三」全面賛美を許すな

さらに、怒りをこめて明らかにしなければならぬことは、動労革マル・鉄道労連の対応である。「(1)各単組は、『六三・三ダイ改』および、津軽海峡線の開業について宣伝活動を行い、鉄道労連とJRのPRを行います。(2)お客様、友好組織にリーフレット等で感謝の意を表します。(3)全組合員で取り組めるイベントを創造します」これらが鉄道労連の「六三・三方針」である。軍需利用のための青函トンネルを宣伝し、殺人的労働強化・安全無視の結果するダイ改をPRし、感謝の意を表する、というのが、唯一の方針、しかも「三方針」なのである。まさに、「日の丸労働運動」の「面目躍如」ではないか。

われわれは、国鉄労働運動を解体し、有事態勢に向けて、鉄道を再編しようとする「六三・三ダイ改」を断じて許すことはできない。

## 反対同盟 鈴木幸司さん 2/9 芝山町議選に 元気よく出陣！ 3・27 三里塚へ

